



音声・音響情報処理および音響信号を用いた生活空間情報システムの研究

～「音から情報を得るための手法」と「人に音を提示するための手法」の組み合わせによる音情報の活用～

研究シーズ概要

私たちは日常生活において、音から様々な情報を得ています。対象物を目で見ていなくても、音から、モノが近づいてくる様子、人間の生活の様子などを把握することができます。また、異常が発生した場合、発せられている音からわかる事例もいろいろあります。音には様々な情報が含まれており、その情報を抽出することにより、人々が無意識に判断しているようなことを、機械にも行わせることができると考えられます。一方、音により情報を提示することは、画面等を見ることを強要しないため、日常生活や作業中などでも有効です。

本研究では、生活環境において「音から情報を得るための手法」、そして「人に音を提示するための手法」を組み合わせ、音情報を活用する情報システムのための技術を研究しています。

利点・特長・成果

たとえば、日常生活の場での音を集めてそれを分析することにより、生活をしている人の体調や状況に異常がないかなどの「生活クオリティ」を測定することが可能になります。もしも異常がある場合、知人や周辺にそれを知らせるようなシステムの構築に技術的に貢献できるでしょう。

その他の研究シーズ

- 環境の変化に対応し、聞き取りやすい音を再生する
- 混在した音の中から目的のものを抽出する
- 音声、音響の品質を分かりやすく可視化する

キーワード 音声・音響情報処理、音響工学、音響通信システム、ライフログ、音コミュニケーション

本技術に関し、対応可能な連携形態(サービス)

知財活用	否	技術相談	可	共同研究	可
施設機器の利用	否	研究者の派遣	否	技術シーズ 水平展開	可

開発段階

5	第5段階	製品・サービス化(試売/量販)段階	2	第2段階	試作(ラボ実験レベル)段階
4	第4段階	ユーザー試用段階	1	第1段階	基礎研究・構想・設計段階
3	第3段階	試作(実証レベル)段階			

SDGsの目標

11 住み続けられるまちづくりを

